

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 施設名   | 西亀有三丁目保育園        |
| 施設所在地 | 東京都葛飾区西亀有3-31-9  |
| 法人名   | HITOWAキッズライフ株式会社 |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園庭はあるものの、固定遊具がない。室内にホールがないため、外に出られない時に存分に遊ぶスペースがなく、遊具も少ない。限られた遊具で、子どもたちがすぐに飽きてしまっていた。遊具、用具を増やし、全身を動かして遊ぶ楽しさを経験し、もっと出来るようになりたい、この遊具で何が出来るだろうと運動遊びに対する探究心を引き出していく。

## 2. 活動スケジュール

【子どもの観察とスタッフの意識統一】8月

保育園の環境を見ながら気温の高い日や雨の日は戸外での運動遊びが十分にできていない子どもたちの運動発達の状況を見ていくと、体幹が弱かったり、そもそも遊びこめる環境がない

【運動遊具を設置する】8月

安田式運動器具を購入（滑り台や鉄棒など）  
年齢に応じた運動器具を導入することで日常的に運動遊びができる環境が生まれた  
遊ぶものが増えたことで遊び方にバリエーションが生まれた

【幼児クラス・スタッフ：運動講師に出会う】8月

講師から運動器具での遊び方を教わることで、子どもたちのできる活動が増えていった  
子どもたちが自分たちで遊び方を見つけていくことで、友達にも波及していった  
スタッフも講師から運動遊びの意味や介助の方法を学ぶことで、もっと運動遊びについて学びをふかめたいと意欲を持つようになった。

【運動遊びの披露】9月

運動会で保護者にも活動の成果を見せよう  
※保護者の声があれば加えてください  
緊張感よりも楽しさを感じていた。成長の姿をみることができた。

【運動遊びのバリエーションを増やす】10月～12月

活動が活発になるにつれて、運動遊びのバリエーションを増やす  
運動遊びの習慣が定着していくことで、運動遊びを一緒に楽しむ関係が日常生活にも広がっていく

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

○安田式鉄棒 高さの違うもの3本 年齢や体格の違いに応じた高さのものが使用できるよう設置

- ・園庭に常設し、日々鉄棒遊びが楽しめるようにする。
- ・鉄棒から落下することも想定し下にマットを敷く、安全に守れる場所を考えて設置する環境を整える。
- ・考えられるリスクと想定できる子どもの姿を出し合い、安全面の配慮を考える。

○登ったり降りたり、くぐる、またぐ、バランスと取る、投げる、転がすなどの遊びに応じた遊具を増やす。

巧技台各種 トンネル 紅白玉、ボール等

- ・室内外、クラス別など運動用具を使用場所に分散して収納し、日常的に活用できるようにする。
- ・運動する場所が限定的にならないようにしていく。

○各クラスの園庭の使用時間割と散歩に行く日時がわかるよう表を作成し、園庭の使用時間を多くとれるようにする。前の週の記入をルールとし、計画的に運動時間を増やすようにする。

- ・安田式鉄棒 3台 園庭に設置 対格差に応じて選んで遊べるようにする。
- ・人口芝 タイヤの上にかぶせ小さい山を作った。
- ・巧技台(すべり台・ゴムふた・枠)・レインボーバランスストーン・ウェイブバランス平均台・ミニトンネルメッシュ(中に入っている様子を把握しやすいため、乳児の動きの様子を把握しやすく、外にいる大人とのやり取りをしながら遊べるようにした)・カラーゴールテープ・ビーチボール・玉入れボール
- ・遮光ネット 園庭の日よけのため ゴムチップの園庭のため日差しにより地表温度が上がりやすい。
- ・ポータブルスピーカー 保育室が広いため、体操のための音楽を広い範囲に流すため。

### 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

**【子どもの観察とスタッフの意識統一】**  
子ども自身の体幹が弱い、運動遊びをどうするかというイメージがスタッフ内で持っていないということに気付いた

**【運動遊具を設置する】**  
子どもたちの様子を観察することで、こういう遊びがしたいのではないかという仮説をたて、運動遊びを日常に定着させるにはという考えに気が付いた。気づきをもとに遊具がほしいという意見をまとめた

**【幼児クラス・スタッフ：運動講師に出会う】**  
いままで室内に1つしかなかった鉄棒を追加で3台購入し園庭に設置した。講師による鉄棒遊びのレクチャーを受けることで、子どもたちも運動遊びに興味をもち、自分たちもああいう風に運動したいと憧れとなった。スタッフも子どもと同様に講師とのレクチャーを受け、鉄棒遊びの楽しさ、また鉄棒が怖い子どもの気持ちを体験を通して知る。さらに子どもの鉄棒の取り組みで多彩なぶら下がり方や友だちと楽しむ方法など今までにない視点を学ぶ。

**【運動遊びの披露】**  
年長は運動会で運動遊びのプログラムを導入。その時点で自分の徳とするものを疲労する。

**【運動遊びのバリエーションを増やす】**  
各担任が発達を見ながら難易度をあげる、運動遊びが毎日繰り返されるような援助をいれていく。子どもたちもそれに答えるように運動遊びがたのしくなってくる。運動遊びの仲間意識が日常生活にも広がり、伝えあったり譲り合ったりする姿が少しずる見られるようになった

**【活動を振り返る】**  
12月 運動用具を増やしたことで子どもの遊びの変化。子どもたちの体の使い方の変化を振り返る。園庭での遊びが三輪車やストライダーによって遊ぶことが減り、体を動かす遊びを好む子が増えた。鬼ごっこに参加する子どもが増えた。鉄棒は毎日のように遊んでいた。「やってみよう」とチャレンジ精神が高まってきた。顔のケガが減ってきた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

【子どもの観察とスタッフの意識統一】

・活動の方針についてスタッフで子どもたちの様子を見て話し合いを行う

【運動遊具を設置する】

もともと固定遊具が何もなく、鉄棒が設置されると子どもたちはとても喜んだ。自分たちなりに出来ることを披露しては「みてて!」「こんなのできる?」と思いついて思いのこをする。友だちの姿に刺激を受け、自分もやってみようとする子どもが少しずつ増え、多くの子どもが毎日のように鉄棒に集まるようになる。乳児クラスの子どもたちは鉄棒の脇に立ち上がって高さを楽しんだり、高さの違う鉄棒にぶら下がっては楽しむ。低い鉄棒では足を持ち上げ、しっかりぶら下がっていた。まだまだ届かない鉄棒に指先を伸ばし何とかカバーをつかもうと伸びあがっていた。

2階の倉庫、0歳児、1歳児の押し入れにトンネル、巧技台を常時置くことで運動遊びの機会を日常的に増やすようにする。

【幼児クラス・スタッフ：運動講師に出会う】

鉄棒の設置に伴い、簡単なレクチャーや保育士への研修を行う。

幼児クラス向けのレクチャーにおいては、初めての経験に子どもたちは講師の話や手本に目を輝かせ、自分の番はまだかまだかと心待ちにしていることがうかがえた。「どうぞ」と言われると我先にと鉄棒にぶら下がる。様々なぶら下がり方を示されると自分なりにやってみる。交替だよと言われてもなかなかその場を離れない子どもおり、子どもたちの楽しさが伝わってくる。年長クラスではぶら下がり方も少し高度になり、前回りもやってみると、普段そうした遊びが得意と思われていない子どもが出来たりし、「おお〜」と歓声が上がったり、「すごい!」と賞賛の声が上がる。またあの子ができたのならと頑張ってみる姿があった。

・スタッフの研修では理論だけでなく、実際に鉄棒を使ってやってみる。大人になって鉄棒で体を動かすことがないため、ワイワイとしながら実践してみることで体を動かすことは楽しい。鉄棒は面白との時間がうかがえた。また、前回りをする際に怖いと感じる保育士もおり、そうした気持ちやそういった気持ちの子どもへの対応方法を実感、実践をもって学ぶことができた。

【運動遊びの披露】

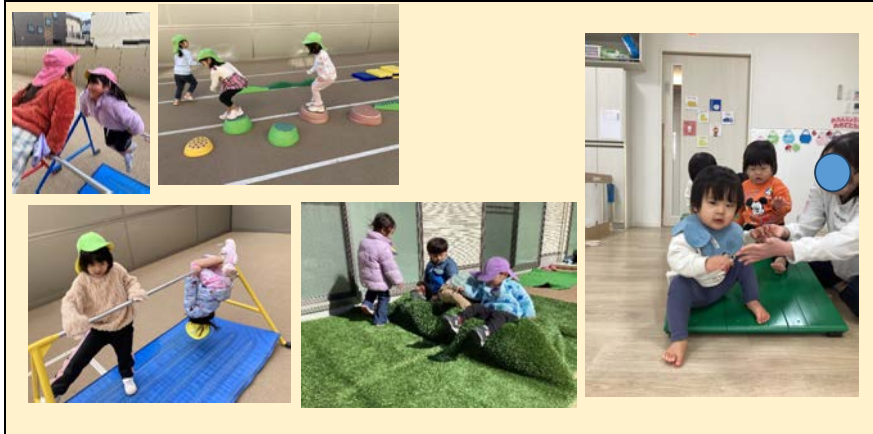
・運動会でそれぞれのクラスで購入した運動用具を多くの演目で使用し運動遊びを楽しんだ。

・年長児はそれぞれの子どもが疲労する運動遊びを選択して披露した。

【運動遊びのバリエーションを増やす】

・2歳児がサーキット遊びを組んだ際に同じようなものになりがちだったが、巧技台の高低差、斜面、バランスを取るもの、くぐるもの等バリエーションを増やすことができた。

・乳児クラスでも室内に日常的に運動用具を置くことで子どもたちそれぞれのタイミングで運動遊びをすることができた。登る、降りる、よじ登る、滑る、くぐるなど様々な動きを楽しめるようになった。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

### 取組前の姿

➡遊具がない、手持ち無沙汰。運動の環境が少なく子どもたちの発達が弱いと感じた  
 ・園庭での遊びというと三輪車やストライダーに乗ることが多く、全身を使った遊びが少なかった  
 顔のけがも多かった。体がふにゃふにゃとし、姿勢維持も悪かった。食べこぼしも多い。  
 子どもたちへどのような働きかけをすべきかスタッフも悩んでいた

### 取り組みよる変化

➡遊具が増えることで遊びのバリエーションが増えた。  
 ・運動遊びをする好む子どもたちの姿から、体を使った遊び、鬼ごっこなどの遊びを行う事が増えた。  
 ・鉄棒で遊ぶことはどの年齢も好み、毎日毎回鉄棒に子どもたちが集まる。

### 気づき

進め方や声掛けがわからないから、理論が先というわけではなく、環境があることで子どもたち自身からかかわり方や声掛けについて気づきを得る

### 今後の展望

➡来年はしっかり理論を学びながら保育士がスキルを身に着け、より安全に運動遊びを見守り、子どもに応じた援助が出来るよう講師をいれたい。  
 ・運動遊び自体が配慮の必要な子どもへ提供できたり、受け入れられる環境がつかれるように外部講師に依頼をして、次年度に継続していきたい  
 ・今年は環境づくり、日常への導入ができたが日々のルーティンとして継続性、連続性を持ちたい。